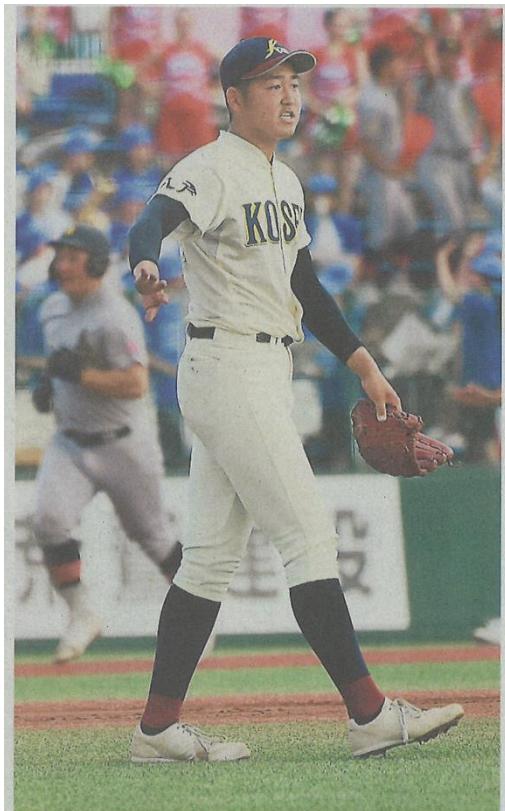


2024年（令和6年） 7月19日 金曜日

東奥日報 17面 掲載



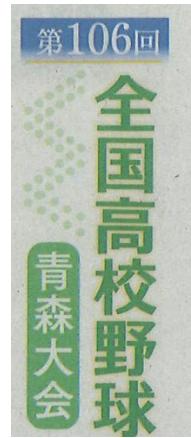
4回裏、青森山田の4番原田（左奥）に2点
本塁打を浴び、降板する八学光星の先発洗平

強豪八学光星を引っ張ってきた左腕洗平の最後の夏が終わつた。肘のけがを抱えながらも先発を志願、四回途中2失点でマウンドを降りた。「満足に投げられず最後は悔しい形で終わつてしまつた」。試合後の取材で3年間を振り返ると涙があふれた。

4月ごろから肘に痛みを感じ登板を控えてきたが、負けが続いている青森山田相手に投げないわけにはいかなかつた。3回までは無失点に抑えたものの四回に痛みが悪化。4番原田に甘く入った球

1年時から甲子園のマウンドに上が
り、2年時には背番号1を背負い聖地で完封勝利を挙げた「濃い3年間だつた」。
最後は充実感をにじませた。（高橋佑）

光星 散発5安打



東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したもの